

## 2. 第五期計画事業の成果

### (1) 歴史街道をデスティネーションに

#### ①メインルートにおける資源の発掘と再整理

資源の発掘・整理は、「歴史街道」を体験するツアー造成に欠くことのできない作業である。当期には、メインルートにおける資源を寺社、博物館・美術館、祭事、食、宿泊施設などテーマごとに再整理し、後述する「歴史街道ツアー」の企画立案に活用した。

#### ②「案内」、「食と買い物」、「宿泊」関係事業の集大成

##### 1) 町家店舗・語り部組織との連携

町家店舗との連携については、各地のまちなみ保存地域との連携や信頼関係の強化、ネットワークの拡大などを計画していたが、ホームページでの紹介を継続するにとどまっている。

語り部組織との連携については、三重県4団体、奈良県6団体、京都府4団体、大阪府・兵庫県それぞれ1団体の計16団体と連携し、毎年秋に21箇所定点案内を実施した。

##### 2) 宿泊施設のネットワーク

推奨宿泊施設のネットワークを形成し、ホームページからの予約、ロビーや館内放送における歴史街道DVDの放映、ポスター・のぼり等の設置を計画していたが、今期は取り組めなかった。

一方で、旅行社と共同で「歴史街道を代表するエリアの街歩きと宿泊をセットにした旅」を提供する上で、歴史街道エリアの宿泊施設を積極的に活用している。

##### 3) 歴史街道推奨ブランド21の活用

歴史街道物産倶楽部の活動については、物産展や伊丹空港でのPRなど事業展開を図ったが、事業採算性の観点から2006年12月末に活動を終了し、2007年3月末をもって解散した。

##### 4) 歴史街道iセンター

地元の協力を得て市町村共同事業参画団体等の情報発信に努めてきた。期首に27カ所あったが、期中に3カ所減、2カ所増となり、現在26カ所に展開している。資料・ファイルを設置し、対人案内が可能な文化施設・観光案内所では、歴史街道関連商品の物販も行っている。

## 5) 市町村マークの活用

当協議会が主体となった商品化は行っていないが、会員市町村に活用してもらうことを期待しており、観光パンフレット、案内表示、ホームページ等に活用されている。

### 歴史街道ボランティアガイド(定点案内)実施地区・協力団体

府県	実施場所	協力団体
三重	伊勢神宮外宮	お伊勢さん観光ガイドの会
三重	斎宮跡歴史ロマン広場、斎宮歴史博物館 いつきのみや歴史体験館	斎宮（いつきのみや）ガイドボランティア
三重	北畠神社	北畠神社
三重	俳聖殿	いがうえの語り部の会
奈良	石舞台古墳・酒船石遺跡「亀形石造物」	飛鳥京観光ボランティアガイド
奈良	今井寺内町重要伝統的建造物群保存地区	橿原市観光ボランティアガイドの会
奈良	桧原神社	桜井市観光ボランティアガイドの会
奈良	黒塚古墳・長岳寺	天理市山の辺の道ボランティアガイドの会
奈良	法隆寺iセンター	斑鳩の里観光ボランティアガイドの会
奈良	朱雀門・東院庭園・ならまち（大乗院庭園文化館）	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会
京都	宇治上神社	宇治観光ボランティアガイドクラブ
京都	松花堂庭園・美術館	松花堂庭園ボランティアガイドグループ「おみなえし」
京都	中山修一記念館	長岡京市ふるさとガイドの会
京都	大山崎町歴史資料館・宝積寺	大山崎ふるさとガイドの会
大阪	大阪城(大手門・桜門・青屋門)	大阪観光ボランティアガイド協会
神戸	異人館街・旧居留地	NPO法人KOBE観光ガイドボランティア

### 歴史街道iセンター

09年3月末

おかげ横丁おみやげや(総合案内)	インフォメーションギャラリー
伊勢市観光案内所	宝塚市文化振興財団(ソリオホール)
桜井観光案内所	神戸市北野観光案内所
天理市トレイルセンター	本竜野駅前観光案内所
国営飛鳥歴史公園館	那智駅交流センター(丹敷の湯)
橿原観光物産センター	道の駅“宇陀路 室生”
法隆寺iセンター	道の駅“宇陀路大宇陀”
奈良市観光センター	道の駅“吉野路大淀iセンター”
なら奈良館	姫路観光ナビポート
宇治市観光センター	松花堂美術館iセンター
京都文化博物館	旧加悦鉄道加悦駅舎
大山崎ふるさとセンター	道の駅“いながわ”
島本町立歴史文化資料館	甲賀市信楽伝統産業会館

### ③「点」から「線」への展開

#### 1) 日本風景街道事業との連携

2007年度より「日本風景街道」事業に取り組んでおり、(3)－④－2)の「景観道路づくり」の項に列記している。

#### 2) 鉄道会社ほか交通機関との連携

鉄道会社ほか交通機関との連携事業として、歴史的名山を巡るシリーズハイキングやイベント列車の運行などを計画していたが、実現には至っていない。周遊バスとの連携についても実施できなかった。

#### 3) スタンプラリー

市町村共同事業は、平成20年度においては21団体の参画を得て実施している。

伊勢市	信楽町観光協会	大津市	彦根市
京都市	宇治市	与謝野町	大阪市
堺市	岸和田市	神戸市	姫路市
三木市	篠山市	多可町	奈良市
橿原市	桜井市	天理市	斑鳩町
明日香村			

スタンプラリーは、本事業の一環として毎年実施しており、平成20度も8月より実施(2009年5月まで)しており、PR用パンフレットを26万部作成し、主要駅およびスタンプ設置箇所(53カ所)、歴史街道iセンター(26カ所)において配布している。なお、「スタンプラリー2007」の応募総数は、約5,300名であった。



### ④テストツアーの充実

#### 1) メインルート

メインルートで12のテストツアーを計画していた。また、主要寺社のツアーについては、奈良の六大寺を特別拝観するツアーを2007年度・2008年度と実施した。また、前記のとおり旅行社と共同で歴史街道を代表するエリアの街歩きと宿泊を盛り込んだ旅「歩いて観る歴史街道」を2008年度秋より提供している。

## 2) 紀伊半島ネットワーク

第五期において4つのテストツアーを計画していたが、紀伊半島においては歴史街道倶楽部において2008年4月熊野古道(中辺路)をめぐる1泊のツアーを実施するにとどまった。

## 3) 戦国～江戸時代ネットワーク

2006年度には、忠臣蔵をテーマに「赤穂」(兵庫県)をめぐるツアー、2007年度には、城下町「彦根」(滋賀県)をめぐるツアー。秀吉の三木合戦をテーマにした「三木」(兵庫県)をめぐるツアー、比叡山と大津市坂本を巡るツアーをそれぞれ歴史街道倶楽部において実施した。2008年度には福井を訪れるツアーを実施した。

## 4) 古代史ネットワーク

2006年、北近畿をめぐるモニターツアーをモデル事業の一環で実施した。同じく2006年度、歴史街道倶楽部ツアーとして、古市古墳群を巡るツアー「羽曳野」(大阪府)を実施した。

# ⑤メインルートのゾーン毎の取り組み

## 1) 伊勢～飛鳥

歴史街道モデル事業の中で地域連携会議を開催したほか、日本風景街道事業の中でフォーラム開催をはじめとし各種事業に取り組んだ。

## 2) 飛鳥～奈良～京都

歴史街道モデル事業の中で地域連携会議を開催した。

また、「飛鳥～奈良」については、日本風景街道事業の中でホームページを立上げ情報発信に努めたほか、受け入れ体制整備に関する取り組みを進めた。

## 3) 淀川周辺

淀川三川合流域地域づくり推進協議会に参画し、地域づくり構想の策定に携わったほか、交流イベントにも参加した。

## 4) 阪神間

2008年度に国土交通省の補助を得て兵庫県内6市、大阪府内4市を対象エリアとし「阪神間美術館博物館ナビ」事業を実施した。これは、36施設をホームページやポスター・パンフレットで広域的にPRすると共に、そのうち10施設については、最寄り駅などから動画で各施設までのナビゲーション等を行うというものであった。

## (2) 歴史街道倶楽部

第五期計画では、休止の可能性がある事業に位置づけられていたが、2006年度より財務体質及び広報活動の強化のために重点事業に切り換え積極的に展開してきた。

イベント、会員誌の発行、他団体との連携によるPR等を実施するとともに、会員増強にも努めた。

「歴史街道」をデスティネーションとして一般の方々へ知っていただくため、会員誌「歴史の旅人」等でのPRや「歴史のまちウォーク」など実際に地域を訪問するツアー等の事業を実施した。「歴史の旅人」発行は年4回。

また、歴史のまちウォーク・講演会等のイベントは2007年に21回、2007年度に22回実施した。

会員増強ではキャンペーンを実施するなどの取り組みを進めた結果、会員数は2006年度に底を打ち、増加傾向に転じた。



「歴史のまちウォーク」(西大寺大茶盛)



「歴史講演会」



会員誌「歴史の旅人」の発行(年4回)

### (3) ネットワーク事業

#### ①紀伊半島

2004年に世界遺産登録され、祝祭行事や記念事業などが全国から注目されたが、第五期は緩やかな「追い風」を受けながら、これを引き金とした地道な地域づくりを再び重視していくべき時期であった。

紀伊半島3県会議の方向などを確かめながら、紀伊半島交流会議において、20年30年後の各地のあり方などに関する議論を始めていくべく、メンバーへの意見聴取などをおこなった。

事業面では歴史街道モデル事業や広報PRなどの継続とあわせ、2008年に広域情報を設置した案内所ネットワークづくりに着手した。

案内所等 名称	場所
堺東観光案内所	南海高野線 堺東駅より南へ100m
堺駅観光案内所-1	南海本線 堺駅 駅ビル1F
堺駅観光案内所-2	南海本線 堺駅 駅ビル2F 西口改札横
大仙公園観光案内所	JR阪和線 百舌鳥駅より北西へ350m
だんじり会館	岸和田だんじり会館 1階
羽曳野市立生活文化情報センター LIC はびきの	近鉄南大阪線 古市駅 西へ徒歩約10分
アイセル シュラ ホール	近鉄南大阪線 藤井寺駅 南へ徒歩約10分
桜井観光案内所	近鉄大阪線 桜井駅 高架下駅舎内
古代大和観光案内所	近鉄南大阪線・橿原線 橿原神宮前駅 駅構内
道の駅 吉野路大淀 i センター	国道169号線
吉野路観光案内処	近鉄吉野線 大和上市駅前
野迫川村総合案内所	南海りんかんバス 野迫川村総合案内所前バス停前
天川村役場	奈良交通バス 天川川合バス停 徒歩5分
天川村総合案内所	奈良交通バス 天川川合バス停前
洞川温泉観光案内所	奈良交通バス 洞川温泉バス停前
道の駅十津川郷 十津川村観光案内所	奈良交通バス 十津川村役場前バス停そば
十津川路 七色(観光案内所)	奈良交通バス 二津野バス停そば
飛鳥総合案内所・飛鳥びとの館	近鉄飛鳥駅 駅前
明日香村観光会館	奈良交通バス 明日香観光会館バス停すぐ
海南市物産観光センター	JR紀勢線 海南駅 駅構内1F
高野町世界遺産情報センター	南海りんかんバス 金剛峰寺前バス停すぐ
高野山観光協会中央案内所	南海りんかんバス 千手院橋バス停前
高野山観光協会中の橋案内所	南海りんかんバス 奥の院バス停すぐ
高野山観光協会一の橋案内所	南海りんかんバス 奥の院口バス停すぐ
南紀田辺観光案内センター	JR田辺駅 駅前

中辺路町観光協会熊野古道館	龍神バス・JRバス 滝尻バス停そば
熊野本宮観光協会観光案内所	田辺市 本宮行政局内
大塔観光協会観光案内所「カモン館」	明光バス 下附バス停そば
龍神観光協会観光案内所	田辺市 龍神行政局内
紀伊勝浦駅前観光案内所	JR紀勢線 紀伊勝浦駅 駅構内
那智駅交流センター	JR紀勢線 那智駅 駅構内
新宮駅前観光案内所	JR紀勢線 新宮駅 駅構内
南海和歌山市駅観光案内所	南海本線 和歌山市駅前広場
わかちサービスセンター	JR紀勢線 和歌山駅 駅前地下
加太駅観光案内所	南海電鉄加太線 加太駅そば
三重県立 熊野古道センター	三重交通バス 熊野古道センター前バス停すぐ

国道311号線などの「日本風景街道（シーニック・バイウェイ）」計画関連では、地元NPOの連携が進んだ。京都や大阪との連携面では京阪・南海電鉄、大阪府市、京都市などが連携し、ウォークや整備事業が展開されたほか、大阪・八軒家浜の「案内所」づくりに際し、紀伊半島情報の発信基地としての機能づけなどについて提案した。

## ②古代史ネットワーク

### 1) 南大阪～飛鳥

「飛鳥・藤原の宮都と関連資産群」が2007年、「百舌鳥・古市古墳群」が2008年にそれぞれ世界文化遺産の暫定リスト登録を果たした。2地区の連携強化や、関西空港や新幹線駅を発着点とした将来の世界遺産ルート（堺～飛鳥～奈良～京都～（大阪・神戸）～姫路）形成についても夢が広がる。

だが、事業面では2005年から大阪府・奈良県によるキャンペーン事業が開始されたものの、主には自治体の財政上の事情から発展的継続には至らなかった。南阪名道路への愛称募集、「太陽の道」（サン・ロード）に沿った淡路島や「古代史ゾーン」との連携、神戸空港・関西国際空港・中部国際空港の連携、修学旅行誘致といった課題にチャレンジすることもできなかった。

年1回のペースで連携会議を開催した。

竹内街道や仁徳陵古墳の活用・検証を目指す団体などとの連携も進んだ。

#### 連携会議メンバー（堺～飛鳥）

大阪府：政策企画部企画室主権推進担当／にぎわい創造部観光交流局観光推進課／都市整備部  
交通道路室道路整備課／大阪市・堺市・羽曳野市・岸和田市（太子町・藤井寺市・阪南市）  
奈良県：企画部観光交流局観光課／橿原市・香芝市・明日香村（葛城市）  
国土交通省近畿地方整備局企画部企画課／大阪近つ飛鳥博物館・大阪歴史博物館  
・堺市博物館・太子町立竹之内街道歴史資料館・県立橿原考古学研究所附属博物館  
南海電鉄・近畿日本鉄道・奈良交通・関西国際空港（西日本高速道路関西支社）／NPO：ゴダイ

## 2) 丹後・但馬

古代史連携が可能なもうひとつの地域、丹後・但馬地区でも年1回の連携会議を開催した。

2006年には両地区が参加しての首都圏PRやプレスツアーを実施。2008年には資源の絞込みをおこない、海の幸や温泉・リゾート環境、豊かな伝承や「もう1つの古代史」をモチーフにした広域マップを作成した。

整備面については大きな進捗はなかった。



### 連携会議メンバー(丹後・但馬)

京都府: 商工部観光商業室 / 中丹広域振興局農林商工部商工観光室 / 丹後広域振興局農林商工部商工観光室  
与謝野町・京丹後市・福知山市・宮津市・伊根町  
兵庫県: 産業労働部観光局観光振興課 豊岡市・朝来市  
国土交通省近畿地方整備局企画部企画課  
西日本旅客鉄道福知山支所・北近畿タンゴ鉄道・丹後海陸交通・全但馬バス・西日本高速道路・関西支社  
北近畿広域観光連盟 / 市民団体: 株式会社キャメル

## ③戦国～江戸時代 (SAMURAIのまち) ネットワーク

### 1) 全域における事業

JR新快速に沿った「SAMURAIのまち」連携を進めるべく、不定期ではあるがまず滋賀県下の地域と兵庫県下の地域での連絡会議を設置。祭の活用等を提案した。

兵庫のdestination・キャンペーンや、滋賀における日本風景街道計画の推進に伴い、具体的な事業展開が期待される。その他、第五期計画の関連では、関西機構との連携事業として、博物館無料開放などを柱にした府県別の「ウェルカムマンス」設定などの提案をおこなった。



## 2) 福井

福井県下における「歴史街道」形成を提案してきたが、観光連盟を中心に「福井やまなみ歴史街道」計画が策定され、2008年よりモニター・ツアーやPR協力などを開始した。



「福井やまなみ歴史街道」をめぐるツアーの実施

## 3) 滋賀

日本風景街道事業の一環として「日本風景街道 琵琶湖さざなみ街道・中山道」づくりを提案している。琵琶湖の雄大な景観と、賤ヶ岳～長浜～彦根～安土～近江八幡～草津～大津と京都を結ぶ一大戦国絵巻を体感できるコースとして発展させていくべく、2006年にパートナーシップを結成。

パンフレット作成などのPR活動や、中山道に沿った地域連携シンポジウムなどに取り組んだ。

<日本風景街道 琵琶湖さざなみ街道・中山道パートナーシップ>

団体名	団体名
近江中山道を楽しむ会・特定非営利活動法人五環生活	
近江八幡観光物産協会	豊郷町
びわこビジターズビューロー	安土町
びわ湖放送株式会社	近江八幡市
中山道近江路連合会	竜王町
滋賀国道事務所	東近江市
滋賀県	愛荘町
木之本町	野洲市
湖北町	守山市
高月町	栗東市
長浜市	草津市
米原市	大津市
彦根市	歴史街道推進協議会



風景街道をPRするパンフレット



#### 4) 兵庫

5つの国（摂津・淡路・播磨・丹波・但馬）ごとに持ち味が違う兵庫県に関しては、この2県のようなルート設定は難しいが、世界菓子博（2008年）、ひょうごデザインレーションキャンペーン（2009年）、姫路城の大改修といった大事業を契機に、姫路周辺地域（赤穂・たつの・明石・一乗寺・生野など）におけるネットワークづくりが求められている。

#### ④ 「美しい関西づくり」について

##### 1) 「歴史街道」モデル事業地区における重点支援

下記の地区などを主な対象に、2006～2007年にかけてフォローアップ事業を実施した。

1 永平寺町（福井県）	2 南越前町（同）	
3 彦根市（滋賀県）	4 近江八幡市（同）	5 大津市（同）
6 旧土山町（現甲賀市：同）		
7 京都市（京都府）	8 宇治市（同）	9 乙訓八幡地区（同）
10 口丹後地区（同）	11 北丹後地区（同）	
12 明日香村（奈良県）	13 斑鳩町（同）	14 旧大宇陀町・15 室生村（現宇陀市・同）
16 羽曳野市（大阪府）		
17 姫路市（兵庫県）	18 篠山市（同）	19 旧出石町（現豊岡市・同） 20 宝塚市（同）
21 旧本宮町・22 口熊野地区（現田辺市：和歌山県）	23 那智勝浦町（同）	
24 新宮市（同）		

## 2) 景観道路づくり

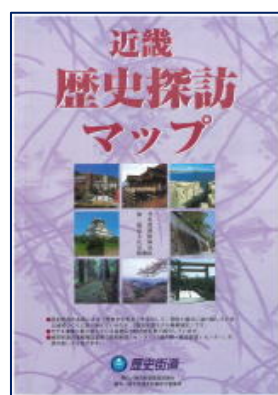
「日本風景街道（シーニック・バイウエイ）」事業の一環で以下の事業が推進され、近畿地区戦略会議メンバーとして、全地域にアドバイスをおこなった。

- i) 琵琶湖さざなみ街道・中山道（大津～長浜：直轄）
- ii) 伊勢街道（伊勢～飛鳥：パートナーシップメンバー）
- iii) まほろば（飛鳥～奈良：同）
- iv) 日本文化のクロスロード [横大路・下ツ道]（橿原：同）
- v) 日本風景街道・近畿戦略会議委員としての関係地支援：  
熊野古道(新宮～田辺、伊勢～新宮)・枚方・丹後・篠山・豊岡・竹内街道

モデル事業実施地区



近畿における日本風景街道実施地区



モデル事業実施地区をPRするマップ

- ・パンフレットの作成

### 3) 古道・街道の顕彰と活用

伊勢街道、山の辺の道、山背古道、京街道、東高野街道、西国街道、熊野古道、竹内街道、東海道、中山道、北国街道を対象に各種の提案やウォークイベントなどを実施した。

全国街道交流会議（関西幹事：歴史街道推進協議会）内に「街道首長会議」が発足し、10程度の関係市町が参加。また、中山道では宿場町交流シンポジウムを主催、また竹内街道で語り部団体によるリレーイベントが実施されるなど、ノウハウの交流が進んだ。

しかし、整備面は第五期と比べて進んだとは言えず、課題が山積している。



中山道シンポジウム:08年3月 於:守山市



### 4) 世界遺産地区等との連携

世界遺産については関連地区において新たな登録の動きがあり、他地域との連携事業が望まれる。選定に関する国の有識者会議メンバーを務めたほか、「百舌鳥・古市古墳群」「飛鳥・藤原の宮都と関連資産群」における登録推進に協力した。



世界遺産をテーマに堺～飛鳥をめぐる現地見学会の実施

景観づくりに関連しては、いくつかの地域が「景観法」を活用した地域づくりに取り組んだ。

各種の要望活動にも取り組んだが、「美しい国づくり」そのものが低調になり、尻すぼみ状態に終わった。国等からの予算も獲得できず、シンポジウム等も未開催であった。

## (4) 広報PR事業

第五期計画では、広報PR面の最重点テーマを「全国への情報発信」と定め、新規事業の多くを、全国を対象としたものに切り替えていくことを目指すこととした。これに基づき、2007年度から首都圏での一般向け講演会をスタートさせ、全国への情報発信強化に向けて足がかりとした。

一方、関西圏広報は、拡大を図ることはできなかったものの、これまでの基本事業を概ね継続するとともに、2007年度からケーブルテレビ番組を放映開始するなど、着実に情報発信を推し進めた。

海外広報は協議会自らが行うものについて休止する方向性を第五期計画策定時に提起しており、北京事務所を閉鎖し、海外フォーラム・セミナー等も休止した。

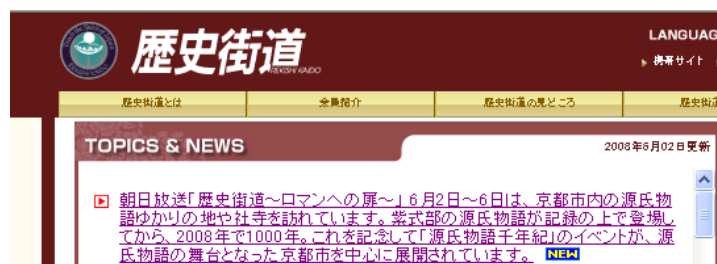
以下、第五期計画策定時に掲げた事業方向性を中心に、継続事業と合わせて総括する。

### ①訴求ポイントの整理

#### 1) 各地域ゆかりの歴史的人物の活用 & 「記念年」と「21ツアー」

歴史的人物や21ツアーを活用した個別の具体的な広報PR活動は実施しなかったが、記念年を意識した広報PR活動は実施した。源氏物語千年紀、平城遷都1300年、伊勢神宮式年遷宮については、各事業の運営組織との関係を密にし、委員会やフォーラムの参加などを通じて情報収集・意見交換を継続した。また、式年遷宮については2007年3月の首都圏展示において、また千年紀については、朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」の番組（後述）で2週間にわたり源氏物語ゆかりの地を紹介するなど、当協議会のチャンネルを通じてそれぞれ広報PRを実施した。

#### 「記念年」に関する広報PR活動



テレビ番組での「源氏物語千年紀」ゆかりの地紹介  
(協議会ホームページでの番組PR)



伊勢神宮式年遷宮に関する情報収集と  
地域交流 (全国町並みゼミ伊勢大会)

#### 2) 「心の時代」「和の時代」

宗教界や「和」に関わる諸団体との連携による活動は、地域づくり事業において実施

### 3) 「日本文化の中心」としての「歴史街道」

関西圏外を含めた歴史的地域との交流事業は、全国街道交流会議やまちづくりフォーラム等の会議体あるいは交流活動の場に参加し、提言・意見交換・情報収集を行う活動を継続したが、地域づくりやルートづくりを具体化する個別事業は実施しなかった。

## ②発信手法と発信先

### 1) キーマンへの情報発信

関西圏のキーマンへの情報発信は、当協議会が主体となる個別の具体的な事業は実施しなかった。

ただし、関西経済連合会において、当協議会との連携・協力のもと、会員を対象とした歴史街道現地見学会・勉強会のほか、当協議会理事でもある堺屋太一氏の講演が行われた。一方、2007年5月に発足した関西広域機構との連携活動について様々な検討を始めており、関西内外のキーマンへの情報発信を広域的・効果的に行うことができるチャンネルに発展する可能性もある。

### 2) 講演会・シンポジウムの開催

首都圏広報の強化の一環として「歴史街道講演会 I N 東京」を開催した。07年度は一般の方々を対象として「未来に伝えたい日本の文化」をテーマに、堺屋太一氏と森本公誠師を講師に招いた。約600名の参加者が来場され、歴史街道計画の認知度を高めると共に歴史街道倶楽部会員の増強を図った。

一方、関西においては2008年度に「歴史街道の魅力」をテーマに「関西講演会」を開催した。一般個人・当協議会会員（法人と個人）・関経連会員法人を対象に山折哲雄氏による講演とパネルディスカッションを実施した。

### 3) メディア対策

#### i) テレビ番組

##### 「歴史街道～ロマンへの扉～」

朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉～」(関西では月～金:18時54分～2分間)は、2009年3月で3800回を越え、関西圏内における各地域の観光魅力の発信はもちろん、その発掘・顕彰や歴史文化を誇りにし大切にしようという地域のコンセンサスづくりに、五期においても極めて大きな役割を果たしている。地域単位にとどまらず、「淀川に添って」、「源氏物語」など、テーマ性を持たせた広域紹介も行っている。また、同番組の収録映像を編集して2004年に制作された4カ国語DVD「歴史街道」も、一般販売や関係者への提供などを通じて、歴史街道のPR媒体として積極的に活用している。

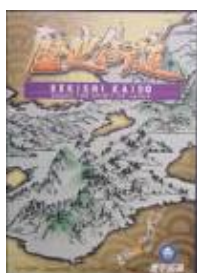
## 「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」

2007年から、関西の14のケーブルテレビ局と歴史街道推進協議会が協力して制作する「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」が関西圏で放送開始されている。各ケーブルテレビ局会社が順番に制作を担当する13分1話完結の番組で、地域の身近な歴史や文化を生活者の視点で紐解きながら、様々な“物語”を掘りおこし、忘れかけていたわたしたちとまちの“つながり”を再発見していくのがコンセプトとなっている。将来的には首都圏ほか関西圏外での放送も視野に入れており、全国への情報発信の好適なツールに発展する可能性を秘めている。

テレビ番組「歴史街道～ロマンへの扉～」と「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」



「歴史街道～ロマンへの扉～」



四カ国語DVD



「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」

## ii) 活字媒体

### 「新聞」

新聞報道は、全国紙では全般に低調であったが、地方紙や専門紙では企画記事を中心にいくつかの掲載があり、情報発信において重要な役割を果たした。一方、2007年度から新聞、鉄道会社等の協力を得て、首都圏での一般向け講演会を開催している。初回となる2007年度は、東京・よみうりホールで「歴史街道講演会 IN 東京 未来へ伝えたい日本の文化」と題し、講師には当協議会の理事である堺屋太一氏と、東大寺長老・前別当の森本公誠師を招き、576名の参加者を集めた。同講演会に関連し、歴史街道の新聞記事が全国掲載されたことにより、首都圏での新たな情報発信が実現したほか、首都圏での歴史街道倶楽部会員獲得にも寄与した。



地方紙の企画記事



首都圏講演会



講演会記事

## [出版物]

2007年3月に歴史街道推進協議会公認ガイド「歴史街道を行く」(A5判変形232ページ)を発行した。同書籍は、歴史街道の見どころを巡るウォーキングコース24とドライブコース25のモデルコースを紹介しており、エリアからエリアへの鉄道アクセス早見表や「道の駅」の情報も網羅しており、一般販売や関係者への提供などを通じて、広報PRの基幹ツールとして活用した。

また、月刊「歴史街道」(PHP研究所)、「ひととき」(新幹線車内誌)での記事掲載を継続したほか、その他の雑誌やコミュニティ紙と連携した情報掲載も行った。「ひととき」の掲載記事は、四期に続いて「歴史街道ウォーキング2」としての単行本化が実現した。そのほか、出版社に対する情報提供も継続した。



月刊「歴史街道」

公認ガイド「歴史街道を行く」

ケーブルテレビ関連誌



ひととき

歴史街道ウォーキング2

コミュニティ紙

## iii) 電子媒体

メールマガジンによる情報配信を継続するとともに、2007~2008年度にかけてホームページをリニューアルし、情報発信力を強化した。リニューアルは、トップページにおいて、発信すべき情報の中身をわかりやすくする一方、できるだけシンプルなデザインにし、ビジュアルを活用したほか、メニュー体系を操作利便の向上と近年の新規事業に対応したものに一新した。歴史街道倶楽部の紹介ページも、トップページを一新し、会員サービスの向上と新規会員の獲得に資するよう構築した。

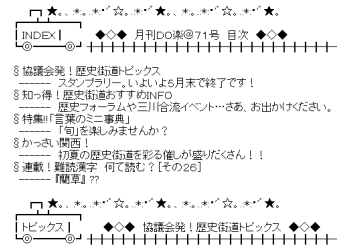




トップページ



歴史街道倶楽部トップページ



メールマガジン

#### iv) パンフレット類

古道・街道・河川などを活用した分割型地域連携リーフレット冊子「あるく歴史街道の旅 Vol.4 都へつづくみちとまちなみ」を、2006年度の歴史街道モデル事業においてフォローアップ事業の一環として作成した。同冊子の紹介地域は滋賀・福井・丹後・丹波・姫路・播磨・洲本で、これをもって同シリーズ冊子4分冊が完結した。また、2007年度には、首都圏からの誘客を目的に歴史街道を紹介するパンフレット「歴史街道の旅への誘い」を、2008年度には、歴史街道を全般的に紹介する汎用リーフレットとして「歴史街道へようこそ」を、それぞれ制作した。



あるく歴史街道の旅 Vol.4



歴史街道の旅への誘い



歴史街道へようこそ

#### v) 展示・出展

##### [関西圏]

2006年度はそねちかPRコーナー（大阪曽根崎地下歩道）イベントゾーンにて、歴史街道ポスターパネル展を開催し、各地の観光ポスターの展示とリーフレットの配布を行った。同所におけるPR協議会が解散した2007年度以降はこれまで当協議会が行っていた規模の大きい自主展示を休止し、自治体や鉄道会社など、他の主体が開催する展示・催物・ウォーキングなどに当協議会が参加あるいは出展して小規模のパネル展示やパンフレット類を配布するPR形式で活動した。2007年度は「堺ツアーデーマーチ」、阪急梅田駅「梅田駅管区夏の縁日」、「乙訓・八幡歴史ウォーク」などに、2008年度「淀川三川ふれあい交流事業」などに、それぞれ出展あるいは参加してPRを行った。



歴史街道ポスターパネル展



鉄道会社主催イベントへの参加



淀川三川ふれあい交流事業への出展

### [関西圏外]

2006年度は千葉幕張メッセで行われた一旅の総合見本市「旅フェア2006」に出展しPRを行った。歴史街道のほか、「あわら・小浜」、「丹後」、「豊岡」、「和歌山」とともにブースを構成し、パネル・ポスター・模型などの展示、パンフレット・ノベルティ・物産サンプルなどの配布、アンケート、民俗衣装を着てのステージでのPRなど、様々な手法により、地域の特徴を活かしたPRを実施した。また、鉄道会社を中心とした協力により毎年実施してきた展示PRは、JR東京駅一番街「北プラザ」での展示やポスター・パンフレット配布や歴史街道クイズ、東京駅日本橋口周辺での電照式ポスターの掲出、キャラバン隊による首都圏西部の主要駅でのパンフレット配布の3種類を組み合わせ、歴史街道と三重県関連の情報を中心とした情報発信を行った。展示はJR東京駅の工事に伴い好適な展示場所が確保できなくなったのを機に、2007年度以降は一般を対象とした首都圏講演会を軸とした広報活動に切り替えている。



旅フェア2006への出展



JR東京駅一番街での展示



パンフレット配布キャラバン隊

#### vi) 地方都市への発信

航空会社、空港、鉄道事業者等と連携した地方都市でのPRなど、具体的な活動は実施しなかった。

#### vii) 新しいファン層の開拓

子供など新しいファン層の開拓につながる具体的な活動は実施しなかった。

しかし、後の地域PRの素材として、池田市の落語、地域独自の祭事など、各地域のユニークなドキュメントの情報収集は継続した。

### ③関西圏における広報

テレビ番組への協力、鉄道会社との連携によるPR、物販、現地での露出度向上など、現状の事業は既述のとおり概ね継続した。鉄道会社との連携によるPRは、鉄道系フリーペーパーにおける歴史街道の情報掲載と、鉄道駅での歴史街道関連のPRツールの掲出・配布による情報発信が、第五期においても大きな役割を果たしている。また、既述のとおり鉄道会社主催のイベントやウォーキングに参加してのPR活動も行っている。一方で、JR西日本管内と4私鉄（近鉄・阪急・京阪・阪神）の駅に設置している「歴史街道ウェルカムボード」のメンテナンスが行き届かないことや、第四期では行われていたスルッとKANSAI協議会との連携が希薄になるなど、課題も生じている。



TOKK(阪急)



近鉄ニュース



ホット！HANSHIN



JRふれあいハイキングだより

第四期から開始した「歴史街道二十一景」絵葉書やDVD、関連書籍等の物販は、2007年3月の公認ガイドの発行を好機とし、五期においても販売箇所の開拓に取り組んだ結果、取扱箇所は約30箇所に拡大した。また、2007年度の歴史街道ホームページのリニューアルの際に紹介ページを整備した。一方、現地での露出度向上については、現地の求めに応じてのぼりやステッカー等のPRツールの新規提供あるいは更新を行うとともに、当協議会会員に対し現地拠点での活用をはたらきかけたことにより、四期の水準を概ね維持したが、一部の地域でメンテナンスが行き届かないツールも出始めており、課題となっている。



物販ツール



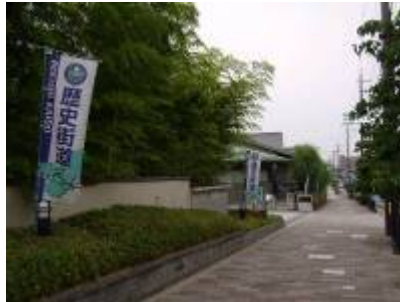
物販箇所(法隆寺iセンター)



ホームページでの紹介



案内標（桜井）



のぼりの設置(松花堂美術館)



会員へのはたらきかけ

そのほか、既述のとおり、2007年度から、ケーブルテレビ会社との連携による歴史街道をテーマとしたテレビ番組が関西圏で放送開始されたほか、各地域におけるシンポジウム活動は、当協議会が参画する日本風景街道事業の中で、2007年度に琵琶湖さざなみ街道・中山道と伊勢街道（奈良県宇陀市）において、地域フォーラムが実施された。上記以外で、第五期計画策定時に掲げた2つの方向性の活動状況は次のとおりである。

### 1) 情報発信サポート機能の充実

地域の情報発信を積極的にサポートしていく取り組みの一つとして、2007年度から、市町村共同事業の中で「歴史街道情報交換会」を開催し、市町村がマスコミ・観光・交通等の関係者に対し、自らの地域の魅力をプレゼンテーションする機会を提供した。

自然環境などと組み合わせたPRは、当協議会が主体となる個別の具体的な事業は実施しなかったが、2008年度は既述のとおり淀川三川ふれあい交流事業に参加し、京都府長岡京市、大山崎町、島本町などの地域PRに協力した。



歴史街道情報交換会での地域プレゼンテーション



プレゼンテーションを受けるマスコミ・観光等の関係者



出席者間の意見・情報交換

## 2) QRコードのさらなる活用

歴史街道スタンプラリーの中で既述のとおりQRコード対応のリーフレットを継続して製作・配布したほか、地域づくり事業では、2006年度に国土交通省の実証実験として、藤原京ルネッサンス実行委員会によるQRコード対応を活用したPR事業の一部に参画した。また、2008年度は国土交通省の「まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）」の公募プランにおいて採択されたことにより、QRコード、動画情報によるナビゲーションなどの内容で「阪神間美術館博物館ナビ」事業を実施した。

## ④海外広報

2006年度は北京事務所を拠点とした活動として、「旅行社販売員向けセミナー」で旅行エージェントの訪日ツアー企画・販売担当者を対象に日本の観光の魅力などをPRしたほか、中国・瀋陽、大連、ハルビン、長春で「関西観光セミナー」を開催した。また、当協議会から講師を派遣し、モンゴル国観光従事者教育訓練事業（セミナー）における観光実務教育への協力を行った。

なお、海外広報は五期計画策定時に休止の方向性を打ち出しており、2006年度を最後に北京事務所を閉鎖するとともに、海外フォーラム・セミナー等の活動も休止した。現在は関西広域機構の関西広報センターに協力を求め、海外プレスツアーやフォーラム等の機会に、適宜歴史街道のPRを行うにとどまっている。



中国旅行エージェントへのPR



関西観光セミナー



モンゴルへの講師派遣

### 3. 第五期計画の総括

#### (1) 歴史街道をデスティネーションに

第四期計画まで、「歴史街道」という名称は、「計画名」や「組織名」と認識されていた。第五期計画においては、歴史街道（メインルート及びネットワーク）を旅の「デスティネーション」として位置づけることとし、その認知度を向上させることを最初の目標とした。

このため、ボランティアガイドの連携など受入れ体制の強化に取り組み、「日本風景街道」事業での観光ルートづくりに着手した。また、歴史街道を訪れてもらうための「テストツアー」や「歴史街道倶楽部」でのツアー（12回／年）などの実施に加えて、旅行会社に協力を求め「首都圏を対象とする歴史街道ツアー」の開発にも着手した。これらのツアーの参加者は着実に増えており、手応えを感じている。

今後の課題はメインルートとネットワーク各々の事業を明確にし、如何に周知させるかである。

#### (2) 全国への情報発信

第五期計画においては、首都圏（全国）広報の強化を2番目の目標とした。

「旅フェア2006」や東京駅などでの「歴史街道PR展示」、朝日放送の協力によるテレビ番組「歴史街道～ロマンへの扉～」のCS放送に加えて、首都圏の市民やオピニオンリーダーを対象とした「歴史街道講演会」を東京で実施し、首都圏での「歴史街道応援団」の拡大と全国紙での記事掲載などに一定の成果を出すことができた。

また、計画外の取り組みとして近畿及び三重県のケーブルテレビ（CATV）14局の協力によりCATVによる歴史街道番組の制作放映を2007年10月から開始し首都圏での放映準備も進めている。

今後の課題は、如何にしてオピニオンリーダーやキーマンの理解と協力を得て「歴史街道」を全国ブランドにするかということである

#### (3) 3つのネットワーク事業の発展

3番目の目標は、3つのネットワーク事業の発展であった。

各ネットワークの連携会議を開き広域連携に向けての意見・情報交換をおこなった。特に力を入れた事業は、紀伊半島では広域案内ネットワークづくりである。

古代史関連地では、大阪南部から奈良にかけては世界遺産登録支援の推進とNPO連携と、北近畿におけるモニターツアーや連携マップの作成を行なった。

戦国～江戸時代関連地においては、全域にわたる事業は実施できなかったが、福井県において「やまぎわ歴史街道」事業がスタートし、滋賀県では「琵琶湖さざなみ街道・中山道」において、地元と連携した各種事業を推進した。地域のニーズを把握し、ビジョンを明確にして、事業展開を図ることが今後の課題となる。

#### **(4) 美しい関西づくり**

4番目の目標は、美しい関西づくりを目指すというものであった。

歴史街道モデル事業については24地区のフォローアップ事業に加え、日本風景街道事業などと軌を一にしながら、「景観道路づくり」や「古道・街道の顕彰と活用」などを推進した。

最大の課題は、地域整備などの地域支援については国の支援、施策の活用が困難になりつつあることである。